

平成21年6月1日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19592538

研究課題名 (和文)

妊婦の冷え症の民族学的特徴—日本人とブラジル人の比較—

研究課題名 (英文)

Ethnological Characteristics of Sensitivity to Cold among Pregnant Women

—The analysis of the Brazilian pregnant woman—

研究代表者

中村 幸代 (NAKAMURA SACHIYO)

武蔵野大学・人間関係学部・講師

研究者番号：10439515

研究成果の概要：2007年10月から2008年2月まで、パラナ州マリンガ市にてブラジル在住のブラジル人妊婦を対象に、体温測定および質問紙による調査を行った。対象者数は200名である。結果、ブラジル人妊婦の57.0%は冷え症であった。また躯幹部と末梢部の温度較差は、冷え症の妊婦は2.0℃で冷え症ではない妊婦と比較し有意差が認められた。しかし冷えと、随伴症状や日常生活行動との関係では因果関係が認められなかった。この結果は、「Japan Journal of Nursing Science」に投稿中である。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19年度	2,500,000	750,000	3,250,000
20年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：冷え症 / 民族学的特徴 / ブラジル人妊婦

## 1. 研究開始当初の背景

日本人女性の50%以上が冷え症であるといわれ、東洋においては重要視されている冷え症であるが、西洋においては概念自体が存在しない。研究者は、ブラジルと日本の両方において日本人とブラジル人の冷え症に対する相違を研究することで、冷え症が民族学的特徴であるのか、もしくは環境や生活様式に影響を受けているのかの示唆を得ることができると考える。

## 2. 研究の目的

本研究は、ブラジルにおいてブラジル人妊婦を対象に、冷え症の自覚がある妊婦の体温及び、妊娠中の随伴症状や日常生活行動の特徴の実態を分析する。

- (1) 冷え症のある妊婦と、そうでない妊婦の躯幹部と末梢部の体温較差を比較する。
- (2) 妊婦の冷え症と、随伴症状や日常生活行動との関係性を分析する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究の対象

妊娠 20 週以降の妊婦で、今回の妊娠や体温に影響を及ぼす様な合併症や異常がないブラジル人の女性

#### (2) 調査期間および調査場所

プレテストを、2007 年 10 月 24 日～11 月 3 日、ブラジル国パラナ州マリンガ市の 1 つの大学病院と 4 箇所の地域保健センターにて行い、本調査も同施設で行った。調査期間は、2007 年 10 月 26 日～2008 年 2 月 27 日であり、206 名のデータを収集することができた。

#### (3) 研究手順および調査手順

研究者と研究協力者の所属の大学間で国際協力提携を結び、パラナ州官報第 7664 号に公示された。調査は、研究当日同意が得られた妊婦に対し、プローブを前額部中央部、足底部中央部に装着し、深部温、皮膚温を同時に測定した。また、測定終了後、質問紙調査を行った。

#### (4) 倫理的配慮

聖路加看護大学の倫理審査委員会の承認と(07-029)、パラナ州立マリンガ大学と国家倫理評議委員会の倫理審査委員会の承認を得た。調査では、調査対象の権利を守るために倫理的配慮は充分に行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 結果および考察

##### ① 冷え症である妊婦とない妊婦の軀幹部と末梢部の温度較差の比較

前額部深部温と足底部深部温の温度較差は、冷え症の自覚がある妊婦は、2.8℃、冷え症の自覚がない妊婦は 2.0℃で、2 群間に有意差が認められた (p=0.018)。このことから、冷え症の自覚がある妊婦の方が、深部温において温度較差が大きいという結果となった。

	冷え症である (N=114) 外気温=23.5℃		冷え症ではない (N=90) 外気温=23.3℃		t 値	自由度	p 値	95% C I	
	平均℃ (標準偏差)	平均℃ (標準偏差)	下限	上限					
前額部深部温	36.3 (0.33)	36.3(0.37)	-0.29	198	0.775	-0.11	0.84		
足底部深部温	33.5 (2.08)	34.3 (2.17)	2.37	198.97	0.019	0.14	1.46		
深部温温度較差	2.8 (2.08)	2.0 (2.19)	-2.38	198.78	0.018	-1.50	-0.14		
前額部皮膚温	35.5 (0.46)	35.5 (0.52)	0.89	198	0.40	-0.09	0.18		
足底部皮膚温	32.3 (2.57)	33.1 (2.18)	2.40	195.68	0.017	0.14	1.47		
皮膚温温度較差	3.1 (2.46)	2.4 (2.00)	-2.37	197.87	0.019	-1.37	-0.13		

##### ② 妊婦の冷え症と随伴症状・日常生活行動との関連性

構造方程式モデリングを施行し、パス図を作成した。4 つの潜在変数の関係を見てみると、「冷えの認識」と「冷えに関連した妊娠に伴う症状」は相互に因果関係は認められなかった。「不規則な生活」は「冷えに関連した妊娠に伴う症状」に正の影響を与えており ( $\beta=0.41, p=0.049$ )、「冷えに関連した妊娠に伴う症状」を介して「陰性食品の摂取」に影響を与えていた ( $\beta=0.38, p=0.021$ )。一方「深部温温度較差」はどの潜在変数においても有意差がみられなかった。

#### (2) 結論

冷え症の自覚がある妊婦の温度較差は、冷え症の自覚がない妊婦に比べて有意に大きい。冷え症の自覚は、客観指標となる温度較差を反映している。また、ブラジル人妊婦は、「深部温温度較差」と「冷えの認識」「冷えに関連した妊娠に伴う症状」に因果関係はなく、日常生活行動が冷え症に影響を与えない。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

Sachiyo Nakamura, Shigeko Horiuchi, Taeko Mori, Masako Momoi, Ethnological Characteristics of Sensitivity to Cold among Pregnant Women—A Japanese and Brazilian Comparison —, Japan Journal of Nursing Science、投稿中 (査読中)

[学会発表] (計 1 件)

第 23 回日本助産学会学術集会、平成 21 年 3 月 21 日

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況（計0件）

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中村 幸代 (Nakamura Sachiyo)  
武蔵野大学・人間関係学部・講師  
研究者番号：10439515

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

堀内 成子 (Horiuchi Sigeko)  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：70157056

桃井 雅子 (Momoi Masako)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号：90307124

毛利 多恵子 (Mori Taeko)  
天使大学・大学院助産研究科・教授  
研究者番号：00166315